

# 論説

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大で、経済的影響に大きな影響が出始めている。休校措置やイベント自粛にとどまらず、観光や出張を控える動きは、地方の過疎のまち・気仙沼と南三陸にも大きな影を落とす。

東海道新幹線の利用者は3月1～9日だけで、前年同期比で56%も減った。企業の出張を控える動きが広がり、観光客の利用も減ったのが要因だ。

JR東海によると、影響の拡大は政府がイベントなどの自粛を要請した2月下旬から。2月は前年比8%だったが、3月に入ると大幅に減少。同社は「経験したことはないこと

が起こっている」と、収束の気配がない状況に危機感を抱く。

東海道新幹線は関東と関西をつなぎ、人を運ぶ日本の大動脈だ。加えて日本航空も19日まで、国内線を2割ほど減便するという。旅客の減少のため、人の移動が当面、さらに鈍くなるのは確実である。

南三陸  
観洋

## 心意気に頭が下がる

人が移動しなくなれば、影響が出るのが観光客やビジネス客を相手とする宿泊業界だ。気仙沼市と南三陸町のホテル・旅館には、キャンセルが相次いでいる。志津川の南三陸ホテル観洋では、6日現在で1万2500人もキャンセルがあったと

いう。少なくとも損害額は1億円以上ではないか。キャンセルは6月分まで及ぶといい、一日も早い収束を願わずにはいられない。ところどころが同ホテルは負けていない。苦境の今だからこそ、町内の飲食店などと組んで町内消費を呼び起こそうと動き始めた。

宿泊客を対象に、町内の飲食店のほか、食料品店などで使える独自の買い物券「地盛(じもり)券」の発行を始めたのだ。1人1泊で500円分の買い物券を配布。費用はホテルが負担するというのだから、その心意気に頭が下がる。利用できるのは70店。

送別会、謝恩会シーズンにも関わらず、イベント自粛や休校の要請で、宴会なども少ない。飲食店、食料品店もそうだが、人が動かなければ品も動かない。各店にとって500円分の買い物券が呼び水になって、少しでも売り上げを上げたいところだろう。

気仙沼、南三陸両市町とも、外から来る観光客やビジネスマンが減っている。こんな時だからこそ、われわれ住民が動こう。幸い、県内で感染者が出ているのは仙台市だけ。正しく恐れながら、新型肺炎に負けない地域にしたい。それがこの地方に「出掛けたい」と思っている人たちへのメッセージにもなる。